

アンチエイジングの現状と将来展望

森 吉臣

NPO 法人日本アンチエイジングメディカル協会理事長
統合医療 赤坂 AA クリニック 院長



アンチエイジングの始まり：約20年前に米国から始まったアンチエイジングは、成長ホルモン補充によって肉体が10歳から20歳若返ったという医学論文に端を発しています。今までの疾患を治療する医療から、疾患ではない若さが研究テーマとなり、また臨床にも応用することで、急速に全世界がアンチエイジングブームとなりました。このような背景から、国際アンチエイジング学会は医学会の中でも有数の大規模な学会へと成長しました。

日本と世界のアンチエイジング事情：アンチエイジングの治療法は次第に多彩になり、西洋医学にこだわらず代替医療も取り入れ、西洋と東洋の良いところを受け入れています。また外見的アンチエイジングも発達し、美容外科、美容皮膚科を包括し、米国、ヨーロッパ、そしてアジアへと世界的な広がりを見せています。日本では2000年頃からスタートし、2つの臨床医学会が活動し、両学会の会員数は合わせて約4000名以上であり、医療関係者以外にも多彩な有・無資格者が会員となって参加しているのが他学会にはない特徴です。

アンチエイジング療法の実際：病気や老化の原因となる危険因子をアンチエイジング検査で探し出すことから始まり、ホルモン補充療法、デトックス・キレーション療法、深部波動療法、分子栄養矯正療法、レドックス療法、血液クレンジング療法、点滴療法などで、先ほどの危険因子を取り除き、不足を補いバランスを整えることで、自然治癒力を回復させオプティマルヘルスを目指します。すなわち積極的な病気予防治療法と言えるのです。

アンチエイジング医療の将来：DNA配列解析によるオーダーメイド医療が理想であり、遺伝子診断、遺伝子治療も始まるでしょう。また、幹細胞を用いた再生医療も決して夢の治療ではなく、研究も進んでいます。アンチエイジングではすでに一部でスタートしている領域なので今回紹介します。

アンチエイジングの教育と普及：「老化」が健康を害する元凶と考えるならアンチエイジングは、一生を幸せに生き抜くために絶対に必要な手段であると考えられます。そのアンチエイジングの正しい普及に向けて NPO 法人アンチエイジングメディカル協会認定のアンチエイジングアドバイザー制度が発足しています。